

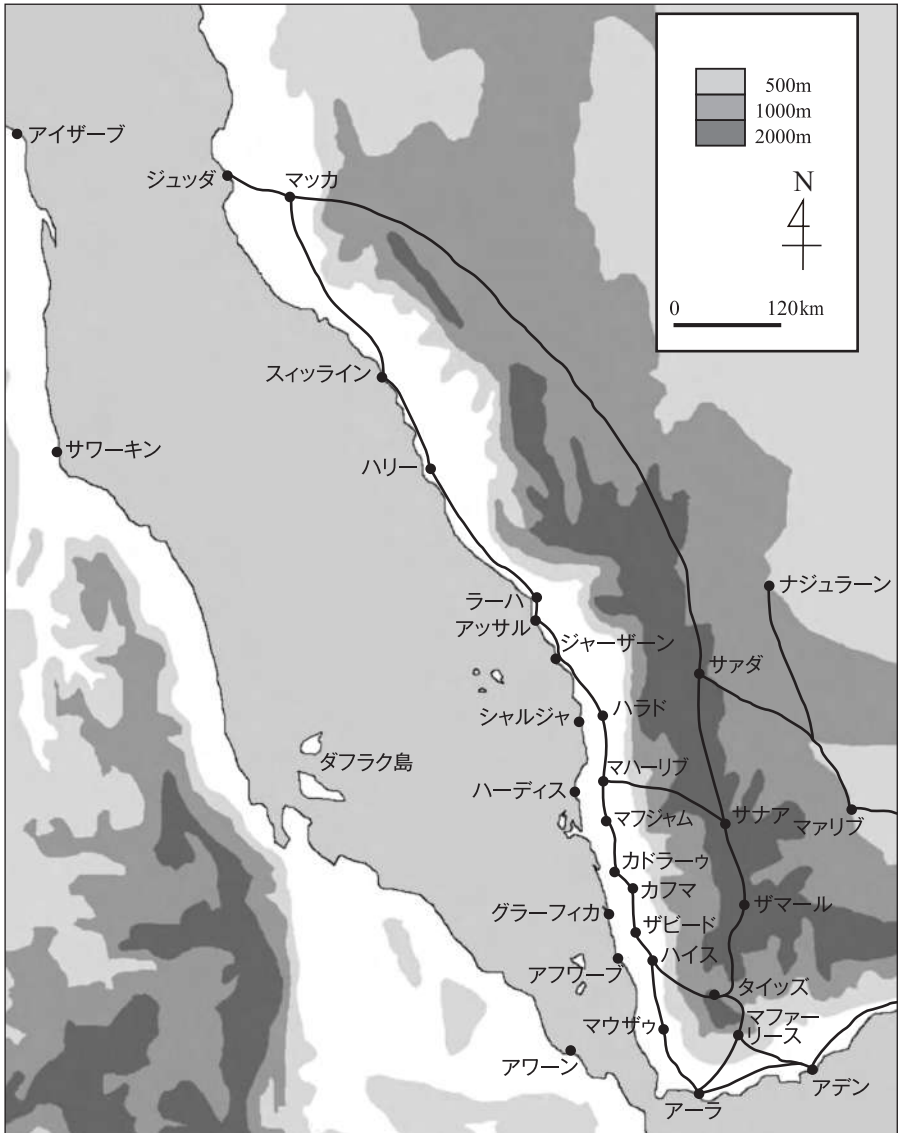
第3章 宮廷への食材供給元

はじめに

ラスール朝下イエメンの経済活動については、インド洋交易研究と比して、これまで十分に検討されてこなかった¹。その背景には史料の制約の問題があったが、近年になって相次いで発見された『知識の光』と『ムアイヤド帳簿』によって、研究の裾野が急激に拡大した。ヴァレはこれらの史料を網羅的に用い、アカネの物流やタイツズのスルタンへの食材供給、都市間を往来するラクダ引きについて考察し、都市と都市を結ぶ交通網がラスール朝支配者層のために配備されたものであったことを明らかにした²。結果としてこの交通網は人々の生活に大いに寄与し、イエメンにおける富の還流 (circulation des biens) を実現したのであった。しかしヴァレの考察では、「宮廷への食材供給元」の実態は十分に検討されていない。ヴァレが示した交通網において、実際にどのような産物がどこから宮廷へもたらされていたのか、供給元には何らかの偏りが存在したのか、存在したとすればその理由は何に求められるのか。

本章では、本書の主題である宮廷食材の供給元を探ると同時に、一三世紀のラスール朝下イエメンにおける地域内ネットワークの実態を食材の輸送という事象に即して明らかにする。ここでは、食材の産地と集散地、そして宮

地図4 ラスール朝期イエメンの交通路



* Vallet 2010: 753 をもとに筆者作成。

廷とのつながりに着目し、連結の機能と関係のあり方を世界大のネットワークの分析と同様に検討するために、「地域内ネットワーク」の語を用いる。

すでに第1章において、様々な香料・香辛料類がインド洋周縁部から送られてきていたことを確認したが、宮廷食材の大半は、イエメンの様々な地域で生産されていた。このことを示すために本章ではまず、『知識の光』所収の宮廷への食材供給に関わる記事より各種食材の詳細情報を抽出し、供給元と品目数、供給先の三つに着目して分析する。次いで、四つに大別できる食材供給元について、供給された食材の詳細やその地理的な状況に関する検討を行う。宮廷への食材供給という事象を軸とし、数量的なデータにもとづいて叙述することで、一三世紀のラッセル朝下イエメンにおける地域内ネットワークの特徴が、従来よりも詳らかに描かれることとなる。

1 「宮廷への食材供給記録」と供給元別宮廷食材

(1) 「宮廷への食材供給記録」

本章で主として用いる史料は、第1章と同様に、『知識の光』所収の「宮廷への食材供給記録」約六〇点である。³ この記録群は、遠方へ送られた布告書 (mansûm) や調達命令書、手当て関連記事といった様々な文書の写しから成り立つ。そのため、記事ごとに書式に差異が見られるが、供給元が明記された記事はおおむね以下のような体裁をとっている。引用文中のコロンや囲み数字は、筆者が便宜上付したものである。

ドウムルワ (al-Dumluwa) にいる、タワシー・アズィーズ・アッダウラの御方 (Jiha al-tawashī 'Azīz al-Dawla

Rayhan al-Luqmani)⁴

(中略)

家族 (al-'i'at) やハーデウムたち、タワーシーの手当て^②ミフラーフ (Mihlaf)⁵ —— アラビア小麦：七一一〇ザバデーザビード—— 一一種類。タマリンド (tamar)：一九五ラトル、ザクロ：三〇〇ラトル^③ (後略)

これは、宮廷縁者の女性に対して行われた、手当ての支給に関わる記事である。まず記事冒頭の①によって、彼女の呼び名や居住地、すなわち食材の供給先を知ることができる。また②には、供給品目の用途、内訳が書かれている。③には、供給品目名やその供給元、分量が記されている。

(2) 供給元別宮廷食材や雑貨類、用具類

前項で引用した記事内容を整理すると、「供給元：ミフラーフ、供給品目：アラビア小麦、供給先：ドウムルワ」、「供給元：ザビード、供給品目：タマリンド (tamar)、供給先：ドウムルワ」、「供給元：ザビード、供給品目：ザクロ、供給先：ドウムルワ」の情報を読み取ることができる。このようにして、供給元の地名を確認できる食材や雑貨類、用具類⁷を抽出し、その供給元ごとに分類したうえでまとめたものが、表5である。この表は、五つの列によって構成されている。左から、供給元の地名⁸、分類(供給品目を分類した名称)、供給品目名、供給先の地名、そしてそれらの情報の典拠、の順に書かれている。典拠が異なっても、供給元と供給品目、供給先の三つの情報が一致した項目を一つとして数え挙げると、総項目数は四四五となる。次節では、この表にもとづいて、供給元と供給先に着目した分析を行う。